

Press Release

2019年4月18日



多賀さとの宿
一圓屋敷

Japanesque Villa
Ichien

報道関係者各位

一圓屋敷が宿泊施設としてリニューアルオープンします

合同会社さとやま多賀（代表 桂善蔵）は、このたび滋賀県犬上郡多賀町にあります登録有形文化財の旧一圓家住宅（一圓屋敷）の改修工事を行い、この6月より宿泊施設「多賀さとの宿 一圓屋敷」としてスタートすることとなりました。

つきましては、報道関係者のみなさまにもご紹介いたしたく、下記の日程で内覧会を開催させていただきます。どうぞご参集くださいますようお願い申し上げます。

記

日 時： 2019年5月9日（木）14：00～15：00 オープニングセレモニーと内覧会
15：00～16：00 交流会（お茶とお菓子）

※交流会は5月7日（火）までに事前予約をお願いします。会費 500 円

tel. 090-3659-6057 zenzoh9187@yahoo.co.jp 桂まで

場 所： 多賀さとの宿 一圓屋敷（滋賀県犬上郡多賀町一円 149）

説明者： 合同会社さとやま多賀 桂 善蔵（代表）
戸所岩雄（建築家）

リリースに関するお問い合わせ先
合同会社さとやま多賀 桂 善蔵
tel. 090-3659-6057
zenzoh9187@yahoo.co.jp

一圓屋敷

一圓家は江戸時代の庄屋で、屋敷は安政4年（1857）に建てられたとされ、平成20年に所有者の一圓六郎氏よりNPO法人彦根景観フォーラムに譲渡された。平成30年までの10年間は、地元住民らで組織する多賀クラブが「多賀『里の駅』として地元町おこしの拠点とした。敷地1678㎡、建物面積が約560㎡、3つの蔵がある。国の登録有形文化財。



一圓家年表

寛文(1661年)頃	初代 高重 江戸時代はじめに初代(1672年没) 2代 高義 杵太夫(もくだゆう)を世襲(1705年没)
正徳(1711年)頃	3代 高次(友之助)(1758年没)
宝暦(1751年)頃	4代 秀綱(弥惣八)(1795年没)
寛政(1789年)頃	5代 秀経(杵太夫)(1793年没)
享和(1801年)頃	6代 秀成(弥惣八)(1808年没)
文化(1804年)頃	7代 秀房(杵太夫)「庄屋」の初見(1829年没)
天保(1830年)頃	8代 有秀(杵太夫)「庄屋」の初見(1881年没) 安政4年1月、現在の場所で屋敷の普請開始。 5月11日、井伊直弼の領内巡見。
明治(1868年)頃	9代 秀延(弥太郎)(1891年没) 10代 秀褒(杵太夫) 明治14年生、26才で郡会議員。その後、大正期まで行政委員を歴任。醒井村より国會議員であった江龍清雄(えりゅうすがお)の二女が嫁入り。明治政府の重鎮であった東久世通禧(ひがしくぜみちとみ)との交流。東久世は一圓屋敷1階次の間に掲げられた扁額「対山軒」の筆者。明治24年、屋敷は茅葺きから瓦葺きへ。2階の増築。明治34年～40年頃、日本画家の内海吉堂(うつみきちどう)が滞在し、衝立や戸棚などに絵を描く。
昭和(1926年)頃	11代 菊太郎 12代 六郎 (2014年没)

※一圓家譜面・滋賀大学経済学部附属史料館「一圓六郎家文書」約650点より、母利美和(京都女子大学教授)が調査。

※屋敷の普請については、濱崎一志(滋賀県立大学教授)が調査。

※屋敷の絵画については、上野良信(滋賀県立琵琶湖文化館学芸員)が調査。

※名前は私的な名のり。()は公式な通称。



青龍山

一圓屋敷は、10代一圓杵太夫が「対山軒」と名付けた。山と向き合う屋根のある建物。山とは、屋敷の南東方向に見える「青龍山」のことである。「青龍山」は、古来、多賀大社の別宮として崇敬を集め、平安から鎌倉時代に栄えた敏満寺の鎮守社にもなっていたと言われる。山麓には胡宮神社があり、山頂に至るところに大きな岩があり祠がある。これを磐座(いわくら)と称し、巨岩信仰に起源をなすと伝えられている。

